



## トーゴ共和国臨時代理大使 スティーブ・アクレソ・ボジョナ

Steve Aklesso Bodjona / 1982年生まれ。2004年ロメ大学法学部学士課程修了、05年同修士課程修了、07年国立行政学院修了、10年大阪大学(日本)国際関係学科修了、日本語学院修了。08年10月トーゴ政務局研究員、外務・地域統合省事務次官補佐、09年5月外務研修(エジプト)、10年9月から現職。

二〇〇七年から援助再開  
ムルアカ(以下、M) 二〇一〇年十月に、駐日トーゴ共和国大使館が完成しましたね。

ボジョナ(以下、B) はい。日本とのパートナーシップを、より緊密化させるためです。大使館を通して国家間、国民同士の関係をさらに深めていきたいと思っています。

二〇一一年三月十一日の東日本大震災に対して、トーゴ国民の心は深い悲しみに打ちひしがれました。トーゴでは、大震災を辛抱強く、勇敢に乗り越えた日本人に対して、尊敬の念を表した報道がなされました。また、ニヤシンベ・トーゴ共和国大統領は、震災後に一番最初に訪日した大統領であり、現時点ではアフリカ諸国で唯一、訪日した大統領です。ニヤシンベ大統領は、震災から三カ月後に

東北地方を訪問し、被災者たちに実際に会い、支援を表明しました。

M 日本からのトーゴへの、政府開発援助(ODA)の現状はどうなっていますか？

B トーゴと日本の関係は、いくつかの段階を経ってきました。まず、一九六〇年に外交関係が結ばれ、九三年まで続きました。九三年から、トーゴ国内の政治の混乱から、国際協力の断絶という第二段階に入りました。そして、第三段階である二〇〇七年からは、国際協力が再開されました。日本からのODAも同様に行われてきました。

日本のODAは様々な分野で行われていますが、主に農業、飲料水の供給、政府職員の研修、教育、保健問題等が挙げられます。なるべく早期にODAの額が、以前の数字まで戻るように願っています。

駐日アフリカ大使  
リレー対談(第十七回)  
〈聞き手〉ムウエテ・ムルアカ 国際政治評論家



## 震災後、アフリカ諸国で唯一大統領が来日

駐日トーゴ共和国大使館が開設してから、まだ一年ほどだが、東日本大震災後、大統領が即座に訪日し被災者支援を表明する等、非常に親日的な国である

取材日=2011年11月30日  
構成=本誌・板本真樹

## 産業の多様化を目指す

**M** 一九八九年に自由貿易地域をつくられたそうですが、具体的にどのような場所なのでしょうか。

**B** 加工業やロメ自治港を活用した、輸出サービス促進のため設置された地域です。ロメ自治港は水深の深い湾で唯一の港で、最新型の船舶も停泊することができます。

自由貿易地域で、企業が支店等を開設すると、以後十年間は付加価値税が免除されます。さらに企業が存続している間は、トーゴで支払う様々な税金が割引されます。自由貿易地域は投資を行うのに有利であるため、トーゴの国内総生産(GDP)に大きく寄与しています。さらに、雇用も促進されるので、失業率の減少にも、重要な役割を果たしています。

**M** 今後のトーゴの経済展望を教えてください。

**B** トーゴはリン鉱石の生産量で世界第五位です。しかしかつて、トーゴのリン鉱石の生産を担当していた企業の生産能力は、トーゴの危機に

より下がってしまいました。そこで現在は、「新トーゴリン鉱石協会」が代わって担当し、新しいビジョンのもと、往年の生産力を超えるために、行動をおこしています。

さらに産業を多様化するための政策も行われています。大理石の石材産業を再開し、またコーヒー、カカオ、綿花等を通して、農業を主要な産業に成長させるための政策が行われるようになりました。銅、ボーキサイト、マンガン等、未採掘の資源も多くあります。また、ロメ自治港を最大限に活用するための施策も行われています。このように、特定の産業を優先するのではなく、産業の多様化を目指しています。

**M** 就学率が七三%とアフリカ諸国の中ではかなり高いですね。

**B** おっしゃる通りです。首都ロメでは、就学率が九三%近くあります。

トーゴ政府は、人里離れた小さな町でも、小学校をベースとした教育システムをつくりました。また〇八年十月以降、トーゴ政府は幼児教育と、初等教育の費用を全額負担するようになりました。トーゴの教育システムは、後に市場に還元される労働者の質を上げるため、高く評価されています。ちなみに、日本への留学生は、現在確認できているのは二人です。今後、交換留学はもちろん、大学同士の交流も増やしていきたいです。

## アフリカのミニチュア

**M** 北部と南部で、文化や言語がまったく違うといわれています。

**B** トーゴは「アフリカのミニチュア

ア」だといわれます。これは文化的多様性によるものです。トーゴには四十以上の民族がおり、それぞれが異なった言語や文化を持っています。違いがあるのは北部と南部の間だけではありません。ぜひトーゴを訪問し、「アフリカのミニチュア」を体験することをオススメします。

トーゴのビール醸造所「BBL OME」は二一年に、ギネス社が認定する「二〇一〇年リーグ・オブ・エクセレンス・ギネス」を受賞しました。同賞は、世界各国のビール醸造所が、十二カ月間のチームワークや品質を競うもの。今回は〇六年、一〇年に続いて三回目の受賞となった。これにより、s世界一のギネスビールと認定されました。今後、積極的にプロモーションしていきたいです。

## WHAT IS TOGO



1960年フランスより独立。人口は約600万人(2011年)。公用語はフランス語。労働人口の65%を農業が占める。首都ロメにあるロメ港は、北米・中米とアフリカ・ヨーロッパをつなぐ中継港として繁栄している。在トーゴ邦人数1人(11年)、在日トーゴ人数40人(11年)。第2次世界大戦前にドイツ領だった影響で、いまでもビールがアフリカで一番おいしいといわれている。代表的なビールは「エク・バヴァリア」(写真)。



### ●ムウエテ・ムルアカ

1961年コンゴ民主共和国(旧ザイール共和国)生まれ。81年国立イナザ・イスタ大学電子通信工学科を卒業し、ザイール国営放送入局。85年に来日。東京電機大学工学科卒業後、99年工学博士号を取得。その後、科学技術庁放射線医学総合研究所研究員やコンゴ民主共和国通商代表機関の代表等を経験。さらに多数の大学で教授、千葉科学大学教授等を務めている。著書に「ムルアカ・クレッシェンド」(モッツ出版)等。